

# 本日の研究報告の概要と 研究調査の枠組み

2026年3月16日

一般財団法人運輸総合研究所

所長 屋井 鉄雄

(東京科学大学特任教授・名誉教授)

## 報告(1) 海と陸の機能の連携による陸海の結節点の効率化・利便性の向上 ～「降ろし取り」の効果分析の結果について～

### 『海と陸の機能の連携による陸海の結節点の効率化・利便性の向上に関する研究調査』

コンテナターミナルにおける「降ろし取り」に着目し、ターミナル内外の動きを把握・シミュレーション分析の実施。研究結果をターミナルオペレーターとトラック事業者との連携に資する政策提言につなげる。アジア交通学会(2025年9月)において研究成果の一部を発表。

メンバー: 大高豪主席研究員、大森孝生特任研究員、土屋知省特任研究員、辻本秀行研究員  
佐野薫研究員、坂本渉研究員、前田悦子調査員

## 報告(2) 新モビリティの社会的受容形成に関する枠組みの提案に向けて

### 『地域交通の確保や新しいモビリティ導入のための社会的受容等に関する研究調査』

自動運転バスや空飛ぶクルマ等の新モビリティ導入に対する社会的受容を醸成するための仕組みづくりのため、諸外国の動向を踏まえ、国内関連計画・導入等の実態調査を行い、計画の枠組みや合意形成プロセス等の制度設計に資する研究調査を実施中。

メンバー: 佐野薫研究員、岩淵紗葵研究員、田口遊羽研究員、田中健太郎研究員

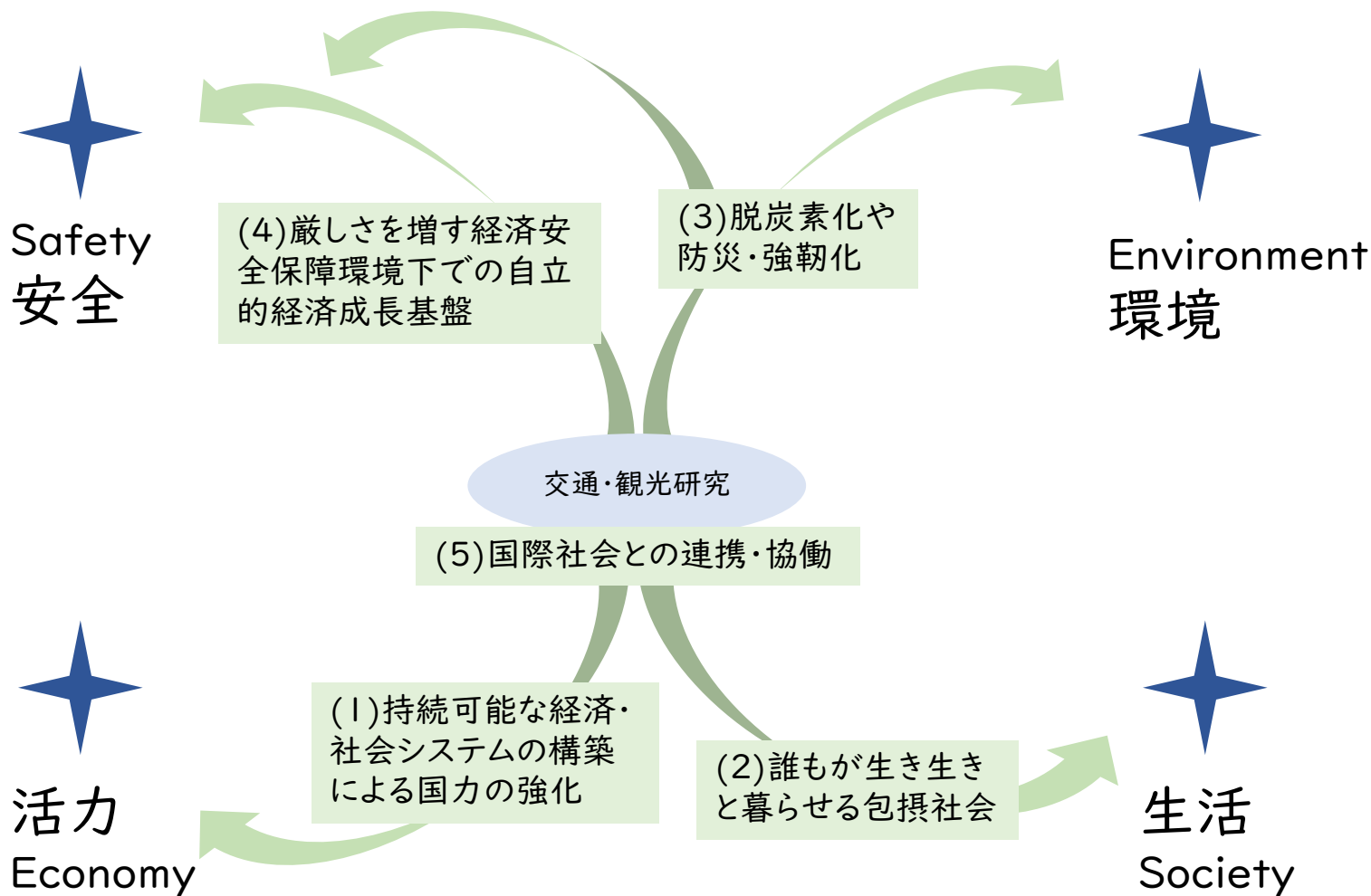
## 報告(3) 次世代小型航空機の活用を想定した混雑空域の運用共存性の研究

### 『首都圏空域の将来の利活用に関する研究調査』

航空交通システムの将来の技術革新や、電動・水素航空機、空飛ぶクルマなど次世代航空モビリティの実用化を見据え、首都圏空域を対象に安全かつ効率的な空域の活用、様々な機材の共存を実現するための考え方やあり方等に関する研究調査を実施中。

メンバー: 平田輝満客員研究員、菅生康史研究員、松原朋子研究員、坂本渉研究員、  
水田早苗主任研究員

# 社会の4つの目的を常に意識した研究姿勢の必要性

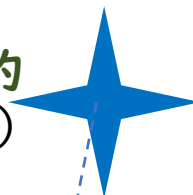


研究所の新たな中期戦略における5つの柱

# 3種の価値に配慮した「研究の視点」の必要性

(前回の研究報告会時のスライド)

究極の目的  
(持続可能な社会の実現)



究極の目的 (持続可能な社会の形成)  
を意識した研究 (4つの目的) が重要!

⇒ 4つの目的を支える3種の価値: その大切さ  
(前回のポイント)



Authenticity  
真偽



Justice  
正邪



Good  
善悪等



Safety  
安全



Environment  
環境



活力  
Economy

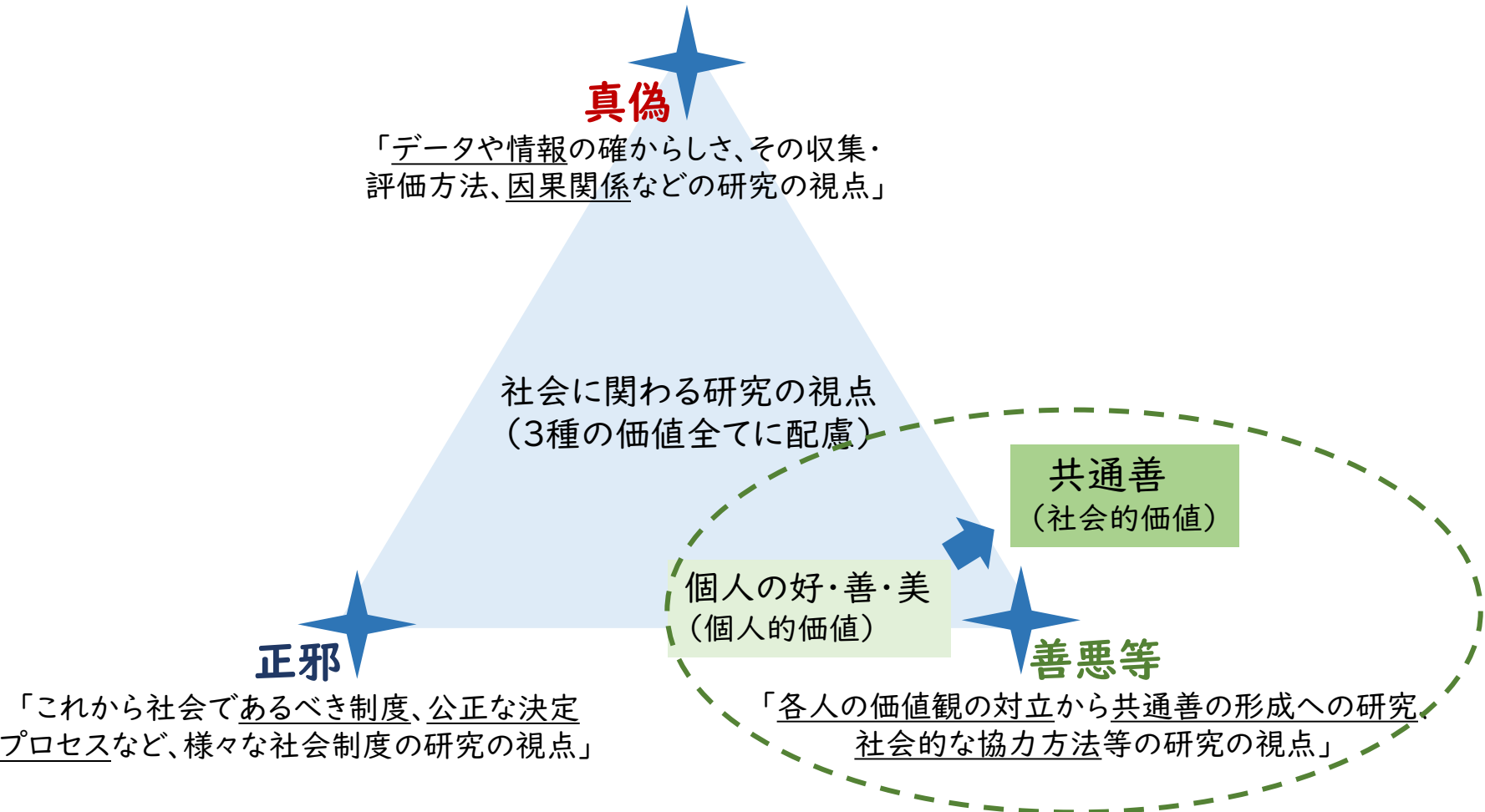


生活  
Society

4つの目的

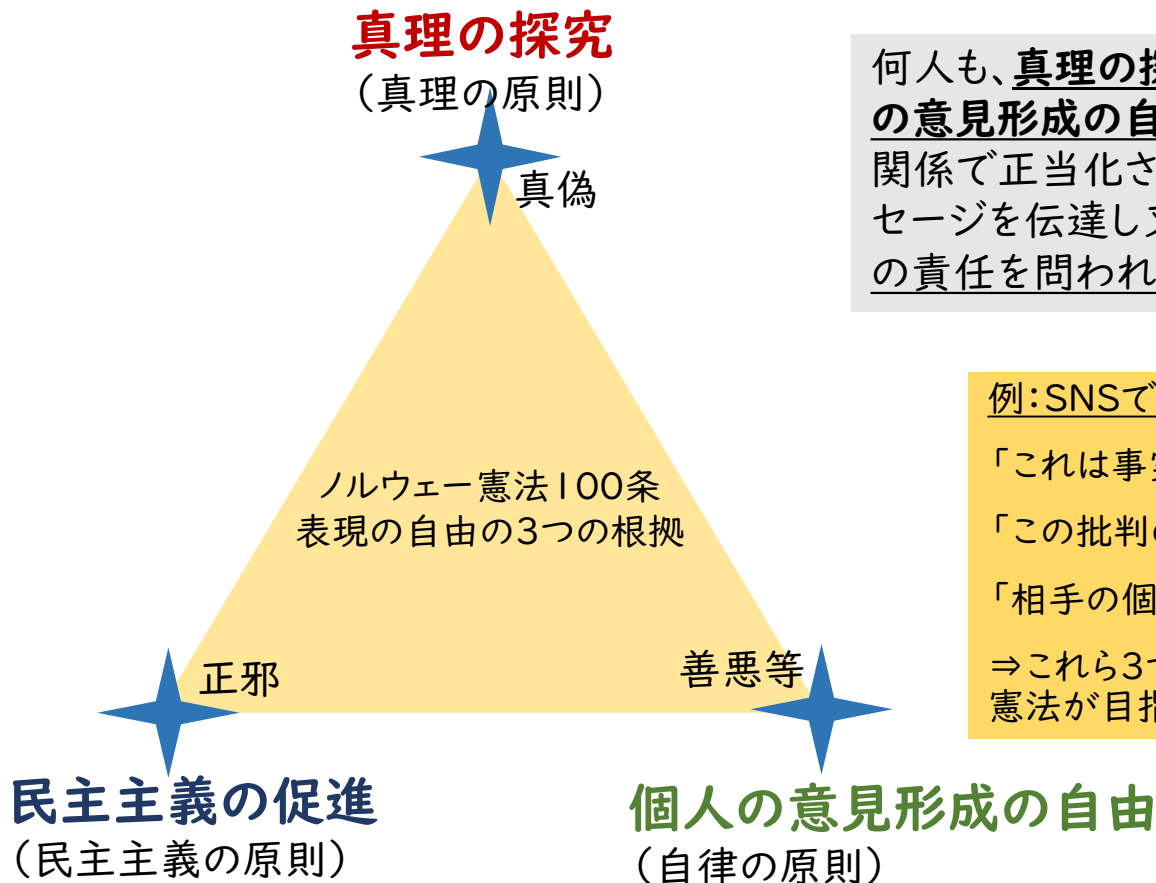
ななつぼし (JR九州)、サザンクロス (南海電鉄)、ミシュラン三星 (タイヤメーカー) など交通に関わる星は数多いが、北極星は?

# (1) 3種の価値に配慮した「研究の視点」の必要性



⇒ **なぜ、これら3種の価値で整理するのか？ できるのか？**  
 (研究活動も「表現の自由」の1つという視点からまず説明してみよう)

## (2) ノルウェー憲法100条の「表現の自由」の3つの根拠 (2004年改正)



何人も、真理の探究、民主主義の促進及び個人の意見形成の自由という表現の自由の根拠との関係で正当化されない限り、情報、思想又はメッセージを伝達し又は受領したことについて法律上の責任を問われることはない(100条の抜粋)

例:SNSで反応する前にまず自分に問いかけて!

「これは事実に基づいているか？」

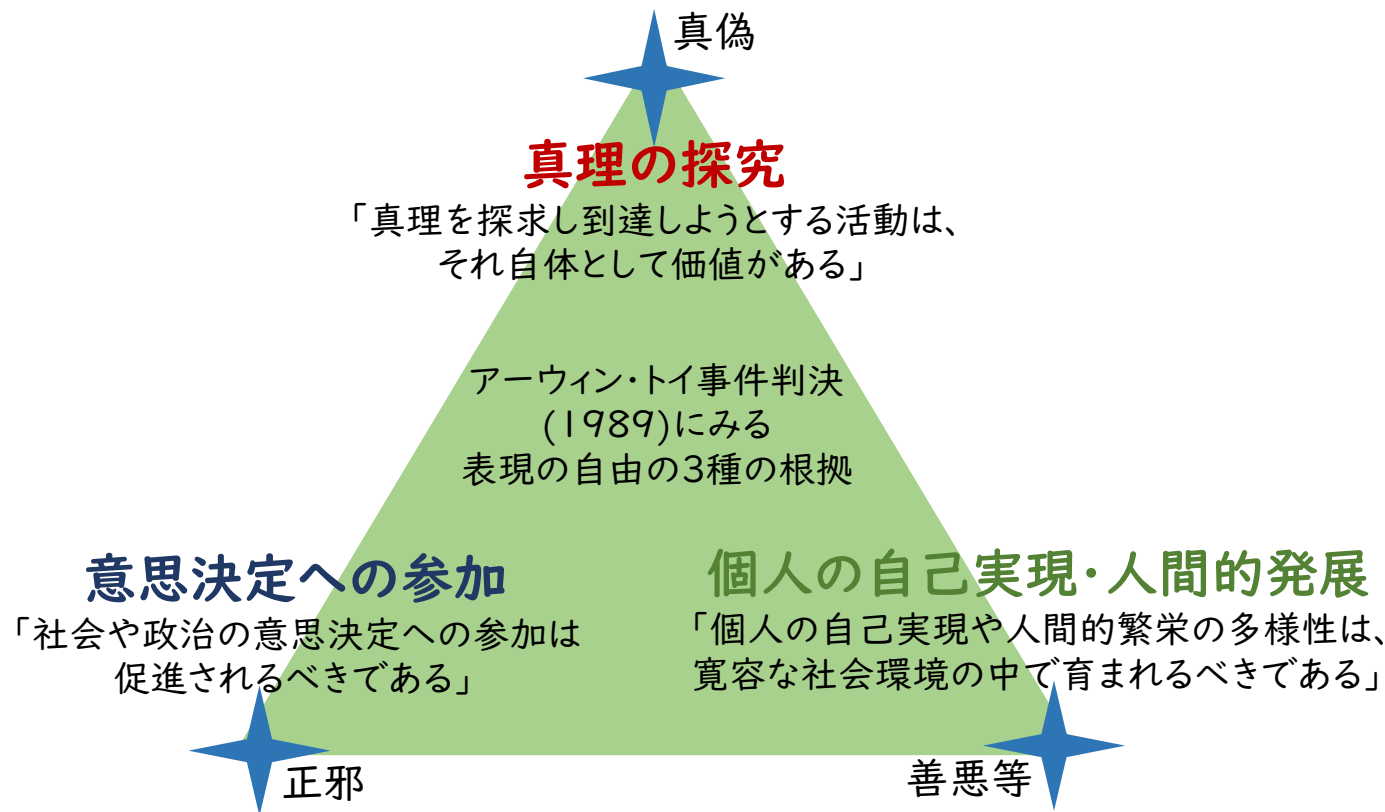
「この批判のやり方は民主的か？」

「相手の個性を不当に踏みにじっていないか？」

⇒これら3つのフィルターを通すことが、ノルウェー憲法が目指す理想的な国民の対応

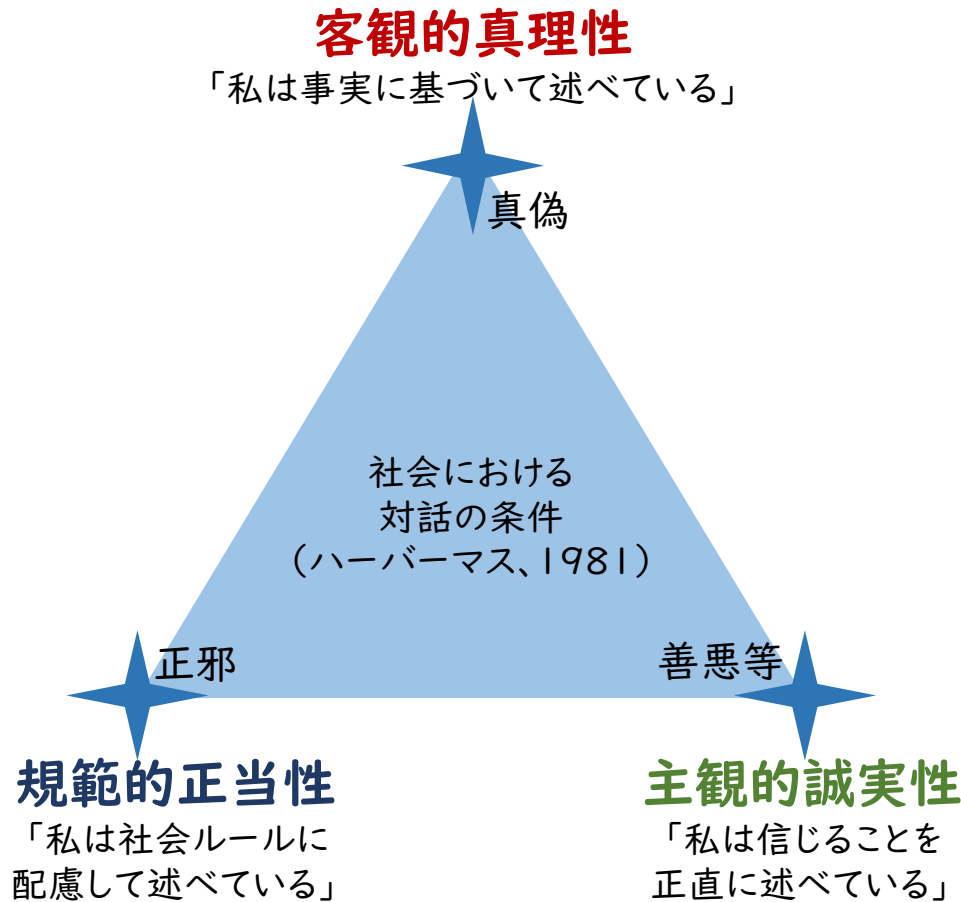
⇒「3種の価値」が「表現の自由」の根拠として制度的枠組みとなり、これが国民のあらゆる活動の根本原理になっている

### (3) カナダ最高裁判決「表現の自由」の3種の根拠(1989)



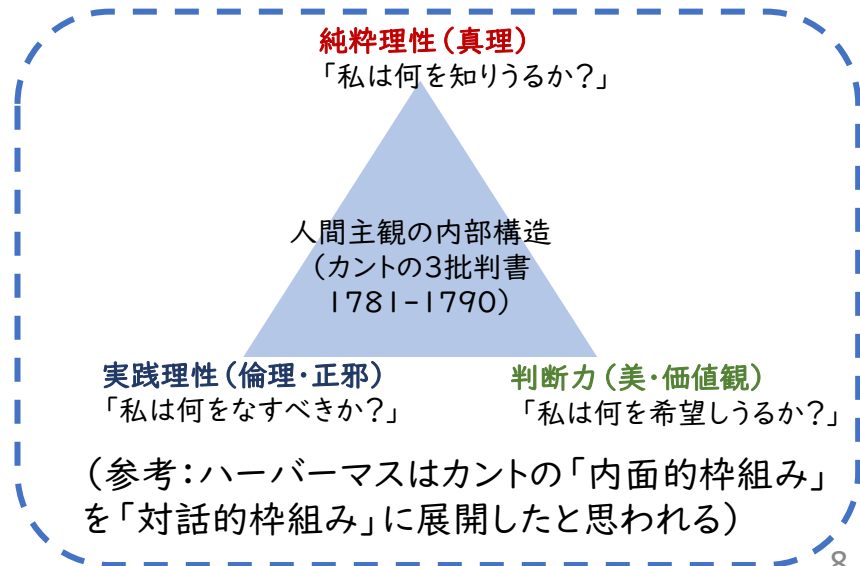
⇒アーウィン・トイ事件(子供向けTVコマーシャル規制への是非)で、カナダ最高裁判所が「表現の自由」の解釈指針を初めて体系化し、今日まで続くカナダ流の「表現の自由」の哲学を構築した

# (4) ハーバーマスの対話的合理性における妥当要求(1981)



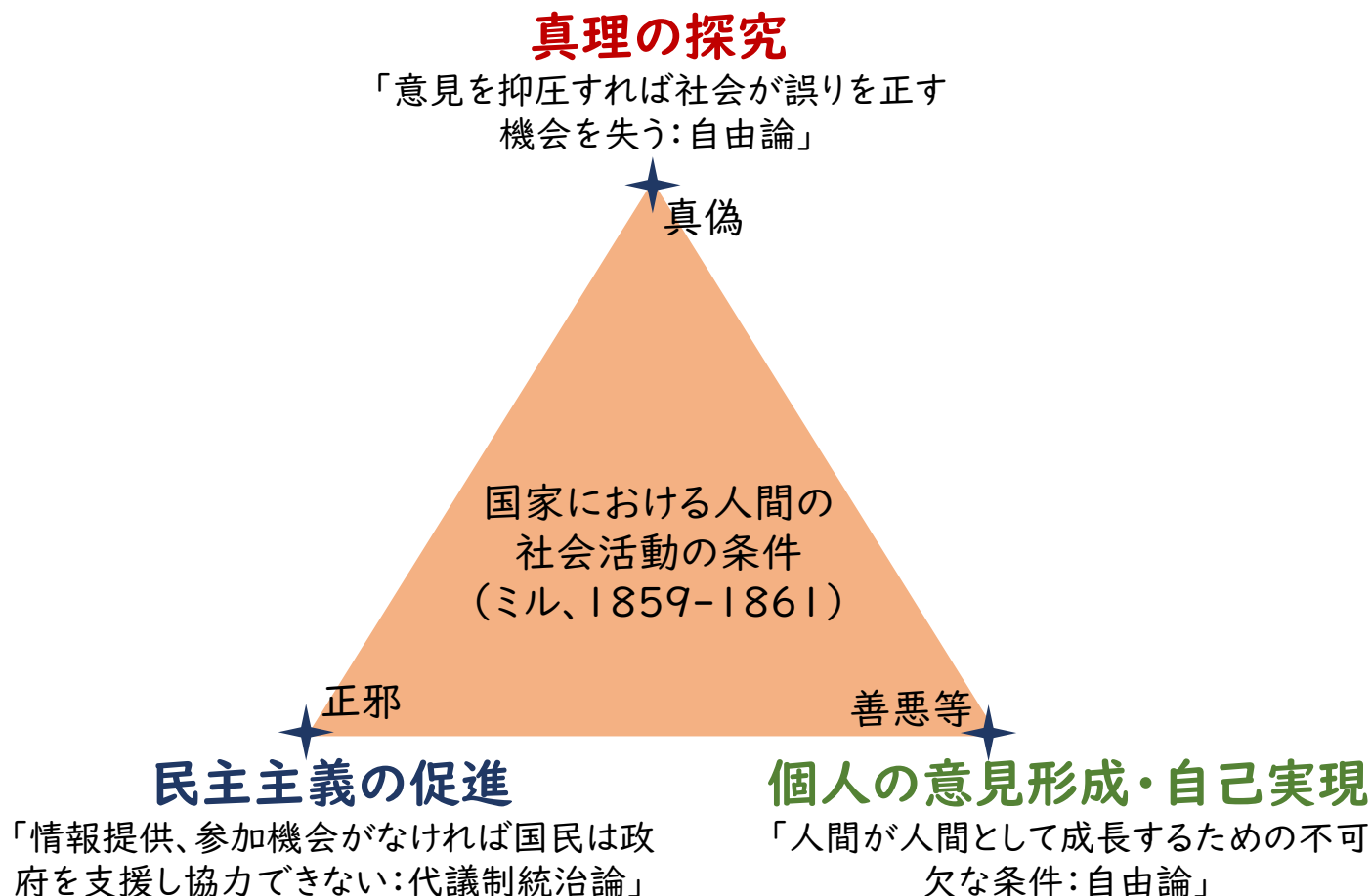
⇒これがノルウェー憲法改正の根拠を形成した理論の一つとみられる

例題:完全自動運転バスの導入  
 住民の発言:  
 「無人運転が安全かどうか不安だ!」  
 発言の意図の推察:  
 「事故発生率などが分からない」(真偽)  
 「なぜ我々がリスクを負うのか」(正邪)  
 「怖いと感じる」(善悪等:個人の好善美)  
 ⇒発言がどの価値に該当するのか?  
 計画側の理解と整理が必要



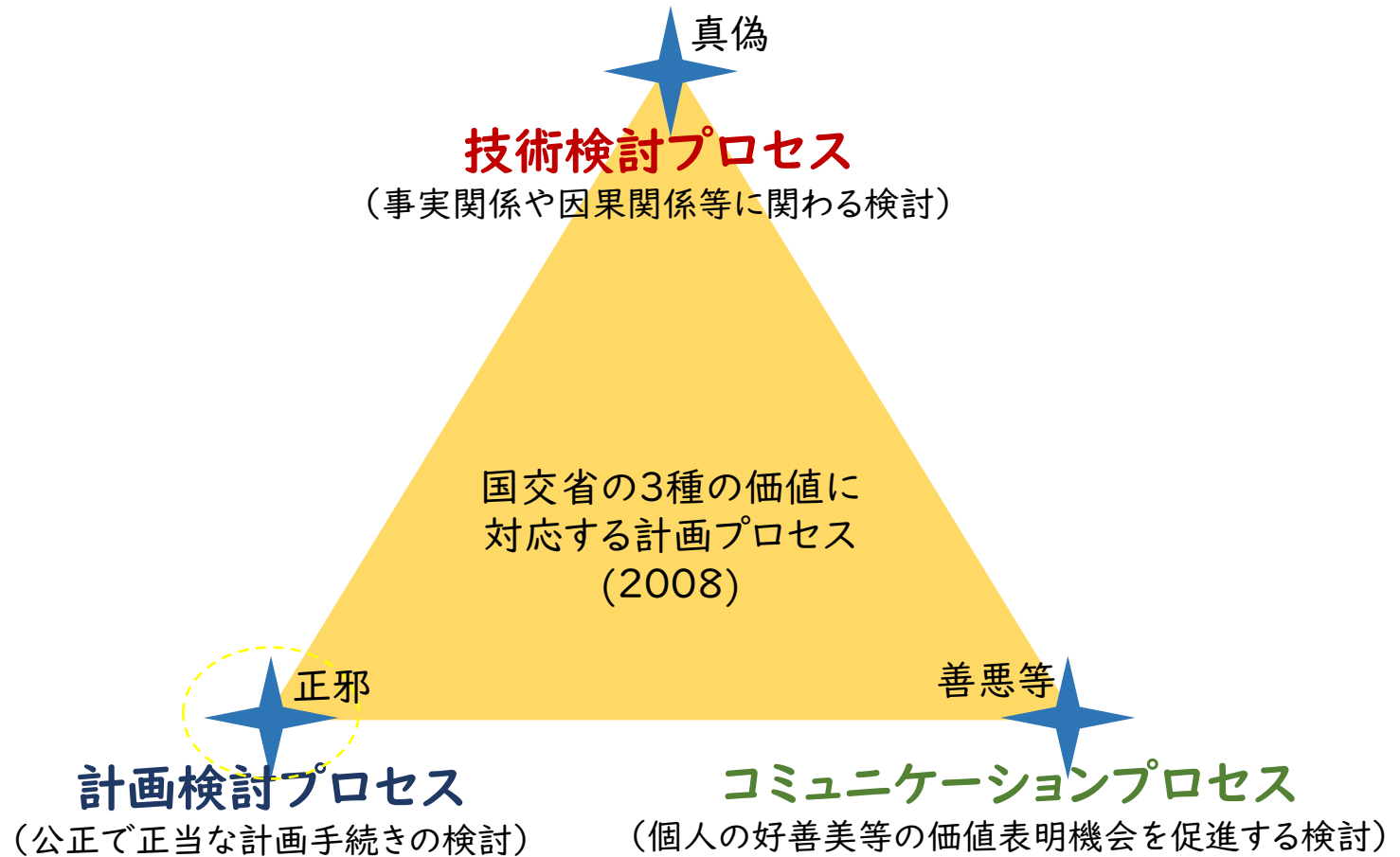
(参考:ハーバーマスはカントの「内面的枠組み」を「対話的枠組み」に展開したと思われる)

## (5) J.S.ミルが構想した社会形成の3要素 (1859-1861)



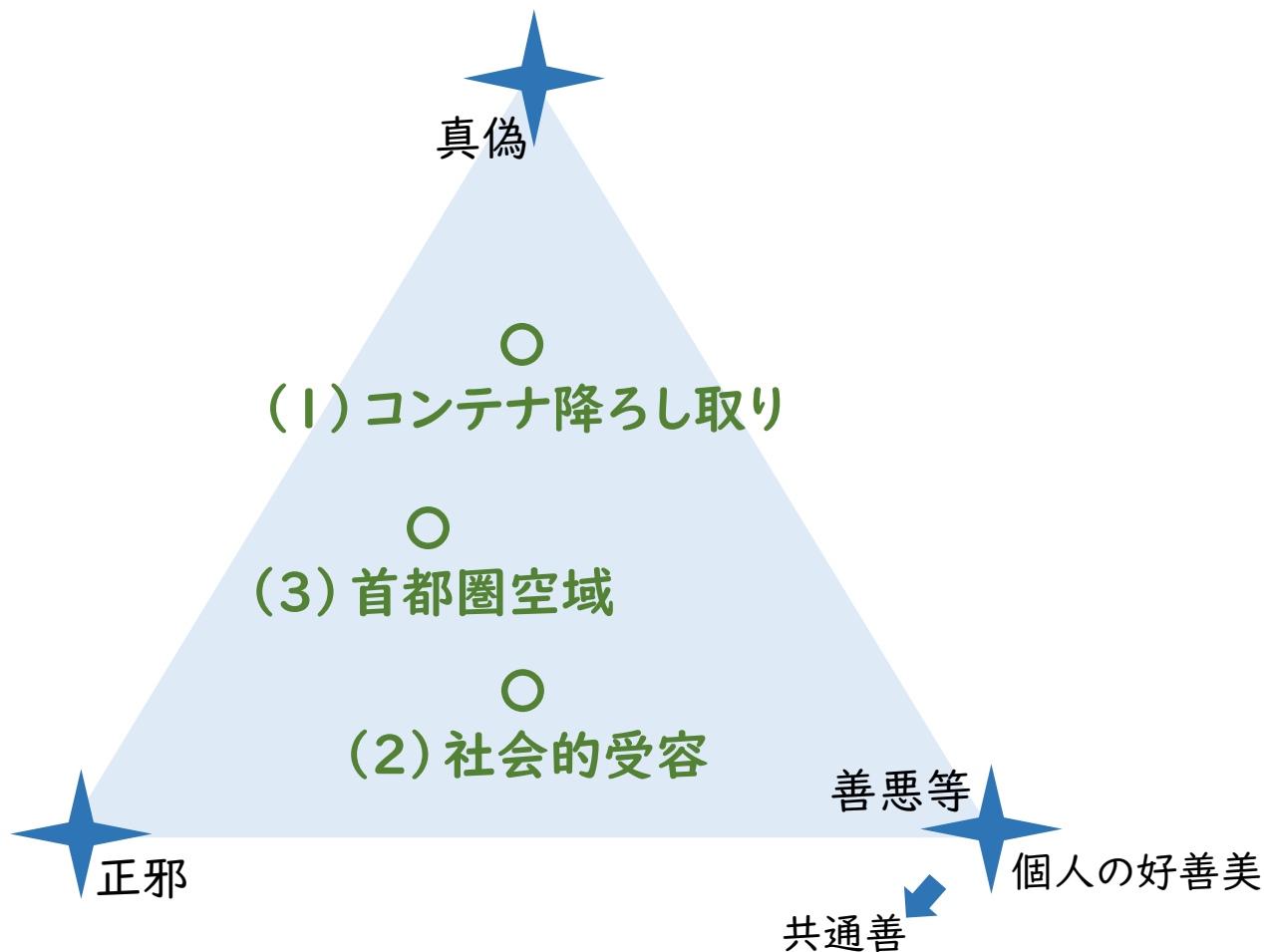
⇒ミルはこれら3種の価値を社会形成の要件として多面的に論じたが、これも現代に繋がる「3種の価値」のルーツと考えられる

## (6) 国交省の構想段階の計画プロセスガイドライン(2008)



⇒ノルウェー憲法改正の4年後には、日本でも同様な主旨から、実践的な計画策定プロセスの枠組みが作られ、各地で活用されている

# (話題を戻して) 本日の発表のポジション



3種の価値に配慮する「研究の視点」は必要

# まとめ

- (1) 本研究報告会の発表3つの紹介
- (2) 研究所の中期戦略の5つの軸
- (3) 3種の価値の根拠(前回報告会からの続き)
  - 「研究調査」や「政策実現」のため、(やはり)3種の価値(真偽、正邪、個人の好善美)に配慮することが必要
  - その上で、個々の好善美を社会の価値(共通善)に昇華させることが理想
    - ⇒ 共通善を得るための手続き(社会的な正義)や事実認識(客観的な真偽)の共有が必要
  - 正義が相対化する中でも、諦めずブレない基軸をフィロソフィーとして持つことが公共政策・計画に求められる時代

ご清聴ありがとうございました

## 参考：ムーアの関心の三角形

この三角形は、調停や紛争解決の現場で役立つ考え方として知られるが、真正善という3種の価値に対応しない

